

「夢の実現への第一歩！さんべ卓球講習会」

～岸川聖也選手&橋津文彦監督に学ぶ～

1 趣 旨

- ・世界を舞台に活躍された選手やそういった選手を指導されている方の技術を習得したり、卓球に対する考え方に触れたりすることで、夢や希望をもつことや努力することの大切さに気づき、目標に向かってがんばろうとする子どもを育てる。

2 事業の概要

(1) 期 日 平成29年9月2日(土)～9月3日(日)

(2) 参加者 参加者142名 (1日目のみの参加者19名を含む) ※募集200名

(3) 研修内容及び講師

1日目 昼	○開講式・OR ○卓球教室① 講師：ロンドンオリンピック男子シングルス5位 世界選手権銅メダリスト 岸川聖也 氏 講師：野田学園中学校・高等学校卓球部監督 橋津文彦 氏
1日目 夜	○指導者講習会 講師：ロンドンオリンピック男子シングルス5位 世界選手権銅メダリスト 岸川聖也 氏 講師：野田学園中学校・高等学校卓球部監督 橋津文彦 氏
2日目 午前	○卓球教室② 講師：ロンドンオリンピック男子シングルス5位 世界選手権銅メダリスト 岸川聖也 氏 講師：野田学園中学校・高等学校卓球部監督 橋津文彦 氏 ○閉講式

3 事業の内容

(1) 事業の特色

2020年の東京オリンピックを控え、スポーツに対する興味・関心は、これまで以上に高まってきている。本事業は世界の第一線で活躍しているアスリートを招き、青少年に「夢や希望をもつこと」や「努力すること」の大切さを伝えていくことを目的としている。本年度は、近年オリンピック・世界選手権等での日本人選手の活躍で注目されており、年齢や性別を問わずに誰でも気軽に楽しめる生涯スポーツでもある「卓球」にスポットを当てた。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

世界を舞台に活躍する選手の技術を間近に見ることのできる貴重な機会である。そのため、実技指導の場である卓球教室では、2つの点を心がけた。1つ目は、より多くの参加者が選手の近くでプレーを見ることができるよう卓球台の配置や進行の仕方を工夫した。2つ目は、選手からより多くの技術を学べるように卓球教室を1日目の午後、2日目の午前と2コマ設定した。

また、今回の講習会では、世界の舞台で活躍する選手だけでなく、そのような選手を多数育成してきた指導者を講師として招いた。講習会に参加した学校やチームの指導者に「選手を育てる上で指導者として大切にしていること」を技術面・精神面の両面において学んでもらえるよう、夜は指導者講習会を設定した。その際、参加児童・生徒が卓球を通じて他校と交流を図れるよう、夜間練習の時間を設けた。

4 成果と課題

《成 果》

- ・岸川選手がフォアやバックハンドのドライブといった1つ1つの技術について、自分がどのような点を意識してプレーをしているのかを丁寧に説明をしながらプレーを披露した。そのことで、多くの選手が技術的なポイントを、より意識しながら練習に取り組むことができた。また、岸川選手の実演中に、橋津監督がそのプレーがどのような原理で成り立っているのかを簡潔に、分かりやすく解説をすることで、指導の効果を高めることができた。
- ・昨年は本事業を2月に開催したが、昨年の課題として「天候やインフルエンザの流行等を考慮すると開催時期の検討が必要」とあげられていたため、9月開催とした。冬季での開催では、卓球のプレーに支障をきたすほどの寒さが予想されたが、今回は卓球に適した環境の中で講習会を実施することができた。

《課 題》

- ・当初、募集定員を200名としていたが、講師の方と講習会の内容を検討していく中で、募集定員を100名に変更し、広報活動を行った。しかし、人気が高く、より多くの子ども達にトップアスリートのプレーを見てもらいたいという思いから、最終的に142名を受け入れた。その結果、卓球台1台に対する参加者数が多くなり、ボールを扱って練習する1人あたりの時間が少なくなってしまった。様々な状況を想定し、ねらいや練習内容を熟考した上で受け入れを行う必要があった。
- ・夜間に計画をしていた指導者向けの講習会は、当日、各チームの指導者から「せっかくの貴重な機会なので子ども達への技術指導の時間をより多く確保してほしい。」との要望を受け、体育館での練習に切り替えた。当日の内容変更で参加者に多少の戸惑いが見られたので、参加チームの指導者とも細かく連絡を取り、しっかりとニーズを把握して講習会の内容を決定すべきであった。



(担当：事業推進室長 寺戸真一)